

<p style="text-align: center;"><b>今年度の指導の重点</b></p> <p>○規範意識の向上をめざし、基本的生活習慣の確立を図る。                  ○落ち着いた学習環境づくりを推進し、学習意欲の向上を図る。                  ○生徒相互の好ましい人間関係を築き、思いやりの心を育てる。                  ○リーダーの育成を図るとともに、互いに高め合い、学び合う集団づくりを進める。                  ○家庭、地域、関係機関との連携、小中の連携した教育活動を推進する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組</b></p> <p>○学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【   】                  ○授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【   】                  ○言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【   】                  ○学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【   】                  ○授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【   】                  ○家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【   】</p>
---	--

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

<p><b>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</b></p>	
<p>【学力状況調査の結果】                  【全国】(3年)                  ○国語A(基礎)、理科(基礎・活用)の正答率は県平均、全国平均よりも高い。                  ○国語B(活用)、数学A(基礎)、数学B(活用)の正答率は県・全国平均より低い。                  ○国語では、「書くこと」の領域では正答率が高く成果が見られるが、語の論理的な構成や展開などに注意し聞く「話す・聞く」の領域に課題がある。                  ○数学では、図形の求め方、一次関数・反比例のグラフを選ぶ設問の正答率は高いが、「数と式」の領域においては課題がある。                  ○理科では、「物理的領域」、「生物的領域」で特に正答率が高いが、記述式の設問に少し課題が見られる。</p> <p>【県】(1年)                  ○国語、数学ともに、基礎・活用の正答率は県平均より低い。                  ○国語では、漢字の読みの正答率は高いが、「書くこと」の領域で課題があり、特に指定された文字数や3段構成で書くことを苦手としている。                  ○数学では、比と比例・反比例の「数量関係」は比較的できているが、小数・分数の計算、百分率の正答率は低く課題がある。</p> <p>【県】(2年)                  ○数学(活用)の正答率は県平均より高く、国語(基礎)、数学(基礎)は県平均並み、国語(活用)、英語(基礎・活用)は県平均より低い。                  ○国語では、漢字の読みの正答率は高い。また、「書くこと」の領域では一定の成果は見られるが、3段構成で書くことに少し課題がある。                  ○数学では、「数と式」、「資料の活用」の領域の正答率は高いが、「図形」の領域に少し課題が見られる。                  ○英語では、リスニング(内容理解)など「聞くこと」の正答率は高いが、単語の並べ替えによる英作文など「書くこと」の領域に課題が見られる。</p>	<p>【学習状況調査の結果】                  ①平日のメディア(テレビ、ゲーム、スマホなど)の使用時間は、1、2年生ともに1時間以上2時間以内の割合が最も多い。また、長時間(3時間以上)使用している生徒の割合も高く、県と比較して全体的に高い傾向にある。                  ②家庭での学習時間は、全学年とも1時間から2時間の割合が高い。1時間以上の生徒の割合は1、2年生は県平均より低く、3年生は県平均より高い。また、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の割合は、3年生では県との比較において高い。                  ③3年生の平日の読書時間が1時間以上の割合は、県平均より高いが、反面全しない生徒の割合も県平均より高い。また、新聞を読む生徒の割合も県との比較において高い。                  ④「あいさつ」の項目は、できていると回答する生徒の割合が高く、県平均と同様の傾向にある。</p> <p>○生活習慣に関する項目                  ・「就寝時刻、起床時刻が毎日ほぼ同じ」と回答する生徒の割合は、2、3年生は県平均より高いが、1年生は県平均より低い。                  ・「朝食を毎日食べる」と回答する生徒の割合は、3年生は県平均と同程度であるが、1、2年生は県平均より低い。                  ○「将来の夢や目標がある」と回答する生徒の割合は、1、3年生は県平均より高い。                  ○「自分によいところがある」という項目に肯定的な生徒の割合は、2年生では県との比較において高い。                  ○「学校の規則を守っている」と回答する生徒の割合は、2、3年生は県平均より高い。</p>

<p style="text-align: center;"><b>成果</b></p> <p>○アセスメントシートの活用による授業改善の取り組み、問題データベースの活用による基礎・基本の定着を図るなどにより、3年国語A、理科では県平均、全国平均を上回り、また、その他の教科においても県平均との差が縮まった。                  ○朝学習の取り組みの工夫や朝の授業前の短時間学習の取り組みなどにより、自分で計画を立てて勉強すると回答する生徒の割合が増えた。                  ○ソーシャルスキルトレーニングなどによる集団づくりを大切にすることで、互いに教え合う場面が増え、「落ち着いた雰囲気の中で学習ができている」、「話し合う活動で相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」と回答する生徒の割合も高い。                  ○授業導入時の「目標(めあて・ねらい)は示された」、授業終了時の「振り返る活動が行われた」ができていると回答する生徒の割合が高い。                  ○「学校の規則、きまりを守る」ができていると肯定的に回答する生徒の割合が高く、規範意識の向上が見られる。                  ○朝読書の時間を大切にしたり取り組みの成果として、図書館を利用する生徒や読書をする生徒が増えている。また、落ち着いた生活にもつながっていると思われる。</p>	<p style="text-align: center;"><b>課題</b></p> <p>○国語、数学ともに活用型(思考、判断、表現)の問題を苦手としており、特に記述式の問題に対しての無回答率が高い。                  ○基礎・基本的な内容の定着が図れていない生徒の割合が多い。                  ○メディア(特にスマートフォン)を利用する時間が高く、家庭学習の時間が十分でない生徒の割合も高い。                  ○課題を提出することを大切にしている生徒は多く、課題提出の割合は高いが、課題への取り組み方が十分でない生徒も多い。                  ○生活習慣(就寝時間、朝食)が確立している生徒の割合がやや低い。</p>
---	--

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業改善	今年度末	「授業が工夫され、わかりやすい」、「授業に落ち着いて取り組み、集中できている。」(生徒アンケート)が85%以上。	・特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり。 ・「アセスメントシート」の分析結果を活用して、個々の特性に応じた支援を行うこととで、学習意欲を高める。 ・集団(学習集団)づくり。 ・ソーシャルスキルトレーニングの活用を通して、コミュニケーション力の向上を図るとともに、学び合う集団を育成する。					
基礎・基本の定着	今年度末	確認テストの正答率が、80%以上。	・3年対象とした「放課後学習(週1日)」及び「土曜日学習(月2回)」の実施 ・テスト週間等の補充学習、朝の授業前の短時間学習(カクさんタイム) ・問題データベースの活用 ・全学年、朝の会、帰りの会、授業等での数学の補充学習と確認テストの実施(Tチャレ) ・英検などの検定問題の活用					
家庭学習の定着と充実	今年度末	家庭学習が1時間以上の生徒の割合を75%以上。	・課題の出し方の工夫。(宿題カレンダー、ホワイトボードの掲示) ・学習の手引きの活用徹底 ・テスト計画と学習時間の集計。 ・メディアコントロールの取組。(9・11・2月にメディアコントロール週間の実施、正しいメディアとの関わり方を考える学習)					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

<p style="text-align: center;"><b>小中連携の取組</b></p> <p>○県・全国学力学習状況調査の分析をもとに、学力向上を目指した授業改善。(ユニバーサルデザインの授業づくり、小中合同研修)                  ○規律ある授業づくり。(チャイムスタート・チャイム終了、教室環境整備)                  ○各校の授業公開への積極的な参加。                  ○小中間における児童生徒の情報交換。                  ○小学校へのお出前授業の実施。</p>	<p style="text-align: center;"><b>保護者・地域へ理解・協力を求めること</b></p> <p>○「家庭学習のスタンダード」「家庭学習の手引き」を活用し、学級懇談や個人懇談で家庭学習のあり方や方法を呼びかける。                  ○生活習慣の確立(就寝時間、朝食、メディアコントロールの取り組み)を家庭と協力していく。                  ○「いじめ」について、学校・生徒会・PTAと協力して取り組み、安心できる学校づくりを目指す。                  ○「学校教育アンケート」を実施し、日々の教育活動にいかす。</p>
--	--